

健康福祉委員会行政視察報告書

- 【視察日】 平成30年8月2日（木）～8月3日（金）
- 【視察委員】 小林和彦委員長、鈴木岳幸副委員長、西原明美委員、大石保幸委員、平井登委員、神戸好伸委員、深津寧子委員
- 【視察先】 長野県長野市、長野県佐久市

≪8月2日(木)長野市≫

【調査事項】1 【認知症初期集中支援チームについて】

① 市の概要

長野市は、県北部、千曲川に沿って広がる平野部の四方を妙高・戸隠連山国立公園に代表される山並みに取り囲まれている。

人口 377,598 人、158,052 世帯。面積は 834.81 km²。



② 取り組みの経緯・内容

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を確立することを目的としている。

③ 今後の課題

認知症支援として、早期支援の重要性と支援チームの周知が不十分であり、啓発活動を推進する必要がある。

チームの対象者を次の支援チームに引き継ぐまでの一連の過程を明確にして、システム化することが必要である。

認知症ケアパス作成に向けての検討、認知症の人の状態に応じた適切なサービスの提供が課題。

④ 本市に反映できると思われる点

本市でも介護福祉プラン21でかなりのことは実施しているが、支援ネットワークを構築していく上で、新オレンジプランやオレンジカフェの取り組みは参考にしていきたい。

≪ 8月3日（金）佐久市 ≫

【調査事項】「佐久市オールマイティパスの取り組みについて」

① 市の概要

佐久市は県東部、佐久盆地の中央に位置する高原都市。現在は上越自動車道や北陸新幹線が整備され、中部横断自動車道の建設も進むなど首都圏・日本海圏・太平洋圏を結ぶ結節地。面積は423.51 k m²で、人口99,368人40,401世帯。

② 取り組みの経緯・内容

オールマイティパスは、平成26年7月から始まった事業である。市長が、漫画「ドラえもん」に登場する道具で、そのパスがあるとどんなことでもフリーパスでできることをヒントに子育て支援策の充実と、この取り組みを全国に発信して交流人口増を狙い、小学1年生限定のパスポートとして事業化された。



③ 今後の課題

現在は福祉部子育て支援課における事業実施だが、対象が小学生なので「教育部」なのか「観光振興の推進担当」なのかがわかりにくく本来の目的ではない、付加価値的な事業効果を考えると、福祉的要素は低いと思われる。

観光振興において導入当初は目玉になる事業でも、時間の経過でニュース性が低くなり今後、更なる旅行情報誌紙などへの記事掲載などの話題作りが必要となってくる。



④ 本市に反映できると思われる点

佐久市のように対象や特典を絞り込むことで、話題性とともにも実効性や経済効果も高くなると思う。

マイレージの対象者を年齢限定、節目の方だけ1年間有効にし、特典ももっと魅力あるものにしたらどうだろうか。

佐久市の新たな取り組みである「教えて！ドクター・プロジェクト」は、子育て家庭における小児特有の疾病への適切な対処と不安解消、同時に医療現場における軽症患者の病院受診の増加抑制効果が期待できる事業として注目したい。